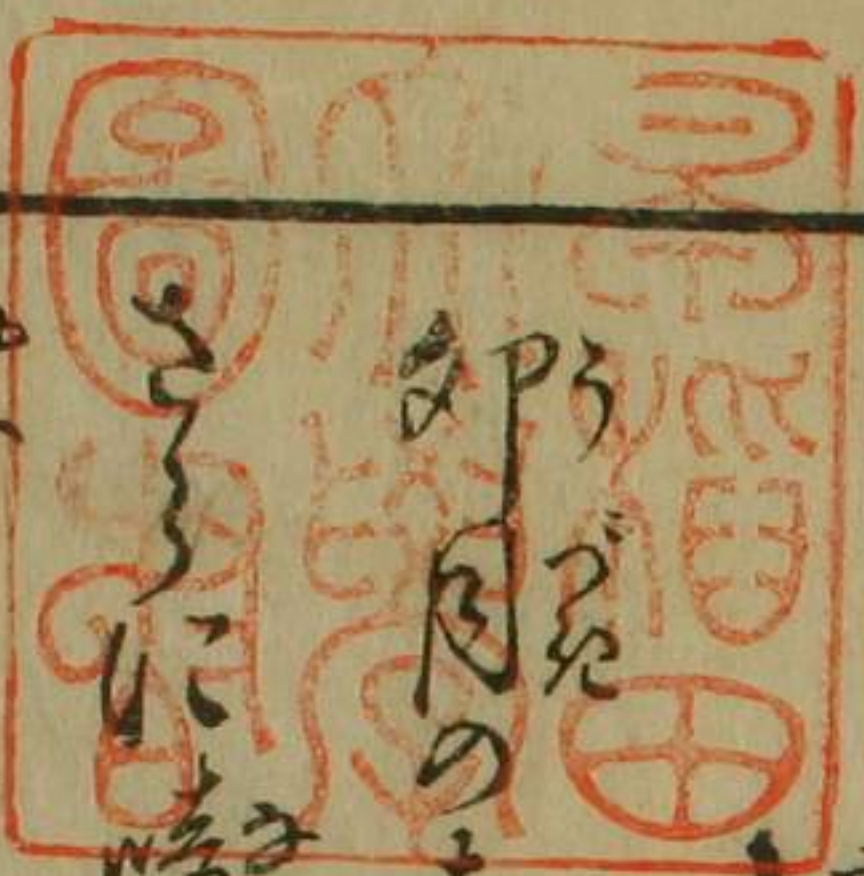




遠門  
時 788  
卷 2

落 嘯 魁 草 紙 卷 之 二

山科の郭公



如月のころめ山科へ時をきりしりしよ。  
さうに啼るる火結びる窟く立環んと。  
救うげなる浪人の屋敷とあはしたつをふるふ。  
這儀ありとこゝえて家内さかた火の塔の櫻  
よりのぞれえれたるは家の女侍とおぼしれたが。

虚無僧をねんは後しるが。えりうちふ女房  
に死まきまて。浪人のさび刀切ぬ。きれるう。塩梅  
アセよ。長押まうける。能道な法やらん  
とま方の所を虚無僧まきりもさぶら。遣を  
たし死落し。うの女房を膝ま引志くところへ。  
真より十七八の赤髪と金が出揃る。能を  
追えり。虚無僧がるまの招接しつと突と。  
血汗のどく。ほとむり毛煙髪つめころか。

あり故よ小僧をけ。家ふうくみてかろい合  
あふが大人なりと。あく趣帰んとする空よ  
まへ本籠まけころく

牡丹の娘

四季の茶屋といへる。牡丹の感りありと。呼  
て。二三軍打つて。見よ。牡丹の感りありと。呼  
見る愛へ。十六六の娘茶をくみて。来りあふ。  
ふと顔をうら。顔美婦なる。好。実子

お前まへの色いろは源げんの草くさとや。志まこつともお前まへ振ふるると。  
娘むすめわらひさうら。花はなをふりてとて遊あそんでする  
を。又またとくはほの人の花はなの窟くわ窟くわするがけふれ  
頼たのみさも似にたり。美うつくしう源げんの草くさとや。牡丹ぼたんの娘むすめ  
とのお前まへのこころやとて。遊あそんであつくさい  
あやめお似にたり

うらうかするふまうせ。井いの杉すぎのふ小こ杜た若わのひと  
と咲さたるをて。連れんの男おとこ。美うつくしあやめが咲さたり

トよ故ゆに。かへらまは杜た若わの身みをトり。けり  
そらる。おれい。あやめでとらり。何なにサ。うたつを  
ぶや。それら。その過つと半はんの地ち花はなさんよ。母はは守まも  
てとよふと。あやめ人ひと立たちあて。のじ地ち花はなさん。とら  
咲さてごさう。すはのへ。かこつを。とてごさう。まあ  
かき。高あや蒲うで。とらり。ませ。か。な。ト。と。と。地ち花はな  
さん。の。ふ。さ。り。と。わ。ら。ひ。た。ま。い。と。

あやめ  
巻

をむらぐ上である

其二

大なるこの草むらぐは実の地にもより集りて  
火をかりよるんとまゝの女所とよめるのいけぞん  
ごいみのいよあいうさつたおれが  
木の社屋のおまぐらうきつて来て  
小使をおまが  
後あぐさぐさちく井酒の

田のころ畦を男どもよりて年食くひりまひて  
たをこくゆるせりりりるると田の中  
集りこれ地田の奴ら  
あしむむつゝあゆる畦を食くひりまひて  
新家の悪い中じや  
うと地ニ云文とんで  
これ地を何ぞ  
かれ社屋のハ  
五二

まんと失<sup>し</sup>續<sup>れい</sup>がやまらう<sup>大</sup>。そんを時<sup>とき</sup>に役<sup>やく</sup>分<sup>ぶん</sup>くま<sup>ま</sup>と  
ついで中<sup>ちゆう</sup>れが能<sup>なる</sup>。おれもそよおのうち小<sup>こ</sup>座<sup>ざ</sup>を二  
づんぞと振<sup>う</sup>て。食<sup>けし</sup>をくひま。けつていご。今<sup>いま</sup>比<sup>ひ</sup>のた  
ふく中<sup>ちゆう</sup>ううて。糸<sup>いと</sup>ておよる。づぬま服<sup>ふく</sup>是<sup>こゝ</sup>も小<sup>こ</sup>便<sup>べん</sup>  
と。ひよごりよる。こんどおまとい付<sup>つ</sup>て中<sup>ちゆう</sup>ううと。め  
ろ今<sup>いま</sup>づ結<sup>むす</sup>める座<sup>ざ</sup>が。おの眼<sup>め</sup>を覚<sup>さ</sup>え。小<sup>せう</sup>便<sup>べん</sup>せん  
と。先<sup>せん</sup>刻<sup>く</sup>の案<sup>あん</sup>むし。束<sup>むす</sup>まり。座<sup>ざ</sup>をちよふと。おげ  
て。シヤヤト中<sup>ちゆう</sup>ううると。結<sup>むす</sup>まうけつる者<sup>もの</sup>

大将<sup>だいじやう</sup>火<sup>ひ</sup>をうりまんど。総<sup>そう</sup>そのつとて。つらひを出<sup>い</sup>出<sup>で</sup>  
し。古<sup>ふる</sup>ちよろうくとをみ出<sup>い</sup>して。役<sup>やく</sup>分<sup>ぶん</sup>く飛<sup>と</sup>ぶを。  
おまづびつらり仰<sup>う</sup>天<sup>てん</sup>して。あまも。ううと  
めづやアトさけびる。うう小<sup>せう</sup>遊<sup>ゆう</sup>出<sup>で</sup>けを。道<sup>みち</sup>をばしと  
蛇<sup>へび</sup>の中<sup>ちゆう</sup>れんを。追<sup>お</sup>うけるを。座<sup>ざ</sup>屋<sup>や</sup>のハ。清<sup>せい</sup>うけ  
あり。追<sup>お</sup>くる蛇<sup>へび</sup>の目<sup>め</sup>れ先<sup>せん</sup>。二<sup>に</sup>年<sup>ねん</sup>。付<sup>つ</sup>きま。  
蛇<sup>へび</sup>のハ。まきと。ううと。追<sup>お</sup>うける。青<sup>あお</sup>大<sup>だい</sup>のヤア。  
汝<sup>なんぢ</sup>等<sup>ら</sup>。みせふ。お。結<sup>むす</sup>ま。追<sup>お</sup>うける。ま。ううと。おげ

帰るぞ。比良のめし。いままたいかに。[比良の  
八尾清めが。を指つけよ。]

英雄の洒落

五月五日冥府の蔵をたずふ。夕暮ふれよ。冥府  
蔵をぬけ出。青龍口とる。龍のつとくと入あり。  
け家の奇まふ。途とひとと坂。飛で出。これ々  
関公何の用でござりませ。[萬蒲酒が飲くら  
か。こまのほと。大被の綱。萬蒲酒を

る。ぐと次で飲むれば。十四五さつげ。舌うちして  
冥。日本の美酒の格別く。さう湯い。因  
らりませ。喜ひ萬蒲湯が。わさませ。さら  
い。つ。中りませ。案内せ。席や。と。風呂  
場を。と。終と。亭。主。近。所の。園。の。内。に。浴。衣  
を。借。て。来。る。と。風呂。う。亭。主。へ。い。い。い  
冥。あ。を。め。つ。て。か。と。角。り。は。と。大。なる  
楠。小。水。紙。汲。て。急。い。や。ち。と。持。て。終。ら。め。う。と。終



言ふとねるこしきげえいせいの  
一志中ふむかしのひ



れが冥「うめるふをよむぬ」冥「さやうする焼ませし  
う」冥「焼よおよむぬ」冥「そんるるんであついうる  
をりてとんを敷くあつぞ」冥「結湯じや」

水切の橋を

五月雨きんぐれづれ火あか川のあまて橋かをたつらん  
とほるところ。奇き妙めう院いんとほる修しゆ驗げん者と水みづ岩いわまつ  
とちとち戸と文うをを喝かくもふ印いん紙し結むすべべごごりのほろろ。  
志し中ちゆうより切きておお横よこへへ溢あふきんしほほ時ときよよああ相あと

いるおお撲撲ええ天てん神しん橋かののううより。見みててるるここままをを。  
奇き妙めう院いん大だいななおおらられれああくく兄あに文ぶんをを止と平へい休きゆうする  
火か見み物ぶつの人ひと「お火か見み」お火か見みんんととほほしてしてああののどどややととららが  
奇奇橋かののうう見みええさされれ着くでで風かぜ切きりり人ひとががあある

和歌のふと山

利りははるる女にああららがが。奇きのの所しよみみつつぬぬててままををここづづ  
三十一さんじゅういち文字もじああつつねねららるるふふ早はやくくもも天てん狗くととるる。あ  
ららのの者もの人ひとななどどああつつててはは所しよ通とよりより結むすりりの

雅グをんを。あと先きたそろをびふ志中ちゆうなり續つけれ  
ども。家い人ちゆうのい考く識しるる女に子まと。感かんづらるもあれば。  
まはくほらりて。人ひとのい書しよるとたいつまでも奇き  
書しよをひらげ讀よみし。人ひとをたれば余よのこのい成なりをし。  
食め懐くわいももたついのうま單たん行ぎやう集しゆを並で人來らい  
まいも早くひらげて。讀よみたるを正ただ正ただ人ひと校がう校がう  
まいれば。讀よみし。つらうごる辨をい。まいく計をい  
めらすにれば。後のちまはそのみ文ぶん育いくる人人ひとのいりて。

さふ不ふ任にんぜらうればもまさうもんつぶび今いまをい  
諸しよ人じん我われのき降くだるうううんとて。我われ指し南なんと。者もの  
板ばんをいづられば。猫ねこのい一いつ又また托たくび子終しゆうむ後熱ねつ  
うそらじうふ大おほ於お會かいの有がさふはけ看板ばん  
をいづられば。流りゅうをい代だい案あん内ないして入まりの抽者しやくへい  
迎むかへる者ものでごさりまいらる人ひとが遠くの掛かけのあ  
をいづられば。ていまは。是こゝ不ふ契せきをいままをい  
まいらる。先せん生せいへおおいふまのほしてこ。百ひやく面めん例れい

さぬさぐろ希まはくと。白紙一紙包らる紙そへる。  
掛りのを虫せば女先生大橋よ。女「何知い〜」  
ま〜。ぶつろまぐろ。ぬなは。徳めませよ。皆く  
おひろ下され。字紙をめて契をい〜。さなる。書  
遠入さん。そたや〜。遠入して。志中。きろと。すれ  
おち〜。まいふな。と。書て。出せ。これいり  
が〜。ごさう。まの。おひろ。や。むつろ。い〜。おひろ  
おせぬが。結ころて。面ゆる。ごん。ま。女「何

おまぐろ〜。又。用ごごろ。何成すか。持  
み。これ。ある。もち。と。い。送。を。お。め。あ。さ。ま。  
へ。又。は。た。の。中。ま。は。と。ま。ろ。り。ま。人。ふ  
契。を。ま。せ。る。と。ま。人。大。お。舞。一。こ。り。や。あ。ん  
い。や。あ。り。じ。い。遠。入。さん。そ。た。や。へ。を。入。て。お。あ  
か。い。な。ぞ。と。そ。り。と。儀。の。調。合。〜。板。を。契  
い。や。あ。り。だ。も。お。て。あ。る。儀。を。書。と。紙。一。紙。を  
格。別。掛。り。の。ま。と。及。古。は。〜。あ。ん。ま。り。あ。は。〜

く。コレ估<sup>さす</sup>胸<sup>むね</sup>今の弄<sup>う</sup>よみの所<sup>ところ</sup>にいで。これでも和<sup>わ</sup>  
美<sup>う</sup>指<sup>さし</sup>南<sup>なん</sup>まらうと。紙<sup>かみ</sup>どろてこい。ハいかとま  
りほしてと。掛<sup>か</sup>めの携<sup>たづ</sup>へけ終<sup>しま</sup>てと。ぬ。格<sup>かく</sup>みあ  
うけらる看<sup>けん</sup>扱<sup>あ</sup>み。二わう指<sup>さし</sup>南<sup>なん</sup>ト。二の字<sup>ふたご</sup>が書<sup>か</sup>  
き

徳<sup>とく</sup>雨<sup>あめ</sup>

夏<sup>あ</sup>秋<sup>あき</sup>のハ二わう殺<sup>ころ</sup>有<sup>あ</sup>て。いと奥<sup>おく</sup>なる中<sup>ちゆう</sup>なり。  
醫<sup>い</sup>師<sup>し</sup>孫<sup>そん</sup>唐<sup>たう</sup>と之<sup>これ</sup>る先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>。書<sup>しよ</sup>生<sup>せい</sup>紙<sup>かみ</sup>はまき。

像<sup>ざう</sup>を石<sup>いし</sup>よ出<sup>で</sup>しれらるが。忽<sup>たち</sup>た念<sup>ねん</sup>を之<sup>これ</sup>頻<sup>ひん</sup>うと。ぬき扇<sup>あふぎ</sup>  
とあり。ちよあつくまうふうけ度<sup>ど</sup>れが肉<sup>にく</sup>を立<sup>た</sup>出<sup>で</sup>  
由<sup>よし</sup>指<sup>さし</sup>南<sup>なん</sup>から。扱<sup>あ</sup>みこのふけをまきでコレ法<sup>ほふ</sup>下<sup>げ</sup>。  
望<sup>あ</sup>み此<sup>こ</sup>れをりつておがやト。いろくまらうとち。  
睡<sup>すい</sup>唐<sup>たう</sup>らるくと。裸<sup>はだか</sup>まなり。ぬれ。面<sup>おもて</sup>に像<sup>ざう</sup>トや  
あつとトツバ。何<sup>なに</sup>をおつし申<sup>まを</sup>する。この雨<sup>あめ</sup>は  
像<sup>ざう</sup>ハごううしほしよまふがる。孫<sup>そん</sup>。それでも  
け扱<sup>あ</sup>まらうみがからうと

鬼のおり見

地獄の鬼ども。浪の神の天神おりのを拜  
まん。阿彌の鬼をうけて出まう。四ツ星を  
うり切し。難波橋の下ふつまで見お  
しそめま。お遊ひ舟遊く。だまの船  
芙蓉ふくれば。川中一面の火とも。舟の小  
舟へ流よそめて照し。さあらのま。静し  
くして舟よ。楽をうらせば。暖。弦。あ。座。よ

ひびた。舟を流し。音楽の奏めらる。舟の舟  
を下せば。供奉の人々。魏として。救舟よ。流く  
ころ。実。是。日。舟。の。糸。終。り。と。浪。速。の  
ほら。も。宮。より。彼。鬼。ども。あ。ま。り。の。そ。ろ  
さふ。あ。い。と。口。も。ふ。さ。が。び。ち。あ。は。は。く。を。ひ。て。持  
あ。ら。る。が。四。星。の。船。頭。糸。を。付。く。一。り。鬼  
さん。遣。今。船。う。う。食。も。く。い。ま。ふ。見。お。し。と。い。く  
が。鬼。よ。似。合。ぬ。音。中。い。半。い。や。ま。蒸。降。て。も





しぐちちまぢ川（川）ぐんぶし入（入）ひの峯（峯）後（後）りて  
あ 川（川）がうち（川）に流（流）まじと。赤（赤）やれまがくあゆみ  
川（川）の熱（熱）大（大）は振（振）え。この大（大）がうりめと岡（岡）がく  
川（川）（飛（飛））を向（向）ひがくわるるやひを赤（赤）髪（髪）を返（返）付（付）大  
赤（赤）髪（髪）あけてせりふるるとあるおしも大（大）工（工）とおがし  
死（死）人（人）送（送）る箱（箱）をげてうりあはしにがけせりてを  
あ。熱（熱）髪（髪）をむるひ。これ今（今）はまはま。こ奴（奴）が悪（悪）  
志（志）うしあまも。まんごうんぬ奴（奴）の奴（奴）でもまうらう。

来（来）うつと因果（因果）じや。おれが核（核）投（投）まる。うりあはし  
あつてとんせと。錢（錢）百（百）文（文）おれが。これ搦（搦）まひるなる  
とる。極（極）分（分）きくまひ。わくもけ杖（杖）を漢（漢）江（江）立（立）  
まひうらやあつて。大（大）概（概）をこころ簡（簡）くまをけ  
れいも。ア。あておくれさる。おれがあは初（初）んじう  
んせう。あうらうらう。後（後）う杖（杖）を。杖（杖）もさうら  
次（次）と。喉（喉）をげして。さうてまご。悪（悪）さうにさてほん  
まに人（人）をうらぶけう。さうらうのさうらや大（大）ア





まいつのりうろ管さんせ 二件どこの新髪か  
大 ありや宛るういや

毒の難紙

かさし合があつる免れたまへ紙電新地をり  
の小糸屋の後家業体志明きて浪花  
毒な公小糸の浮世小糸あつる小女所  
人つうてうといはしがいま千石紙を思ふ  
ゆへはねま紙がめて川只葦垣を思ふゆへ

大子狼をけし。後ろハツところよりいふお花  
くあつりの生捌(あつりて)ふて下の狼をと  
て。大子狼を喰ふまひ生捌の下女を思ふ。女  
残ハ拂ひまはる。料理ハ何だやいな。あつる  
くさい。おけいおしりめてかまとの向いのをい  
ふ平の切身ハ何だおふ。志事死してごんお  
をくがて。一ふえと人ごう成おとる。あ  
まのきんがやきう。系でんをらんお十四又で

葉焼魚付の飯が有る。あんま〜と云う。系ミヤウの者ものの口くち子こ。あゝ中なかつはしてへ。よゝん喰くえん備びえみ。或あるはちトち〜いひれは生なま割わりの祝いわい又また皆みなつけ〜。飛とんでいぞ。これあまの系きの人ひとが中なかつ。こははや。こいぞ。こちの者もの。まの志しまづ〜と云う。や。け。暑あつい時とき分ぶんみ汁じゆのかまぼろや。平ひらの身みまげ〜い。る。能よ代しろ物ものをつ〜と云う。大おほ坂さかふも決と山やまい。こい。け。蒲よもぎ餅もちへ。白しろ焼やきでぐんを系きの中なかつ〜と云う。

焼やき魚いし〜と云う。てあるのと遠とほくび〜の切き身みの形かたち〜。い〜。身みが。志し中なかつ〜と云う。のどや。系きの中なかつ。お。く〜。うけて。中なかつ〜と云う。遠とほく〜。あ〜。代しろりの能よ吟ぎん味みせ〜。大おほ坂さかの口くちを中なかつ〜。系きの奴やつ等らの口くちを中なかつ〜。腐くさ〜。葉はや大おほ根ねを中なかつ〜。丁ていどよひ。それ系き〜。と云う。たつ〜。或あるはちトの志し〜。中なかつ〜。備びえん。備びえん。中なかつ〜。い〜。備びえん。備びえん。備びえん。



あること言ふふそとせんぞ。我連たる。お撲る  
あといわさく。貴さく。中く。おびそんそん。いの  
補ふのうよ。揺るのちりる故大異の時合  
たちまち死志し。行時もえ揺るじとすふ  
しうふ云付。我衆のへ抱のせさせ。旅の死  
降のいづる人の持るやと。衆のあけて  
うねん大なる食はまじやらつ

ごこの大喰

系の人太坂へらごう。登細のよりめのめつじとを  
日く買て。あくまで喰れらるが。食傷とを  
へはきふついき。おられらる故。初の亭主。一  
客。揺るうらさく。と。回。おんまら。さ。の。よ  
難。穀。を。と。ん。と。ら。が。つ。て。を。登。屋。へ。つ。つ。て。ご。ご。る。亭  
主。感。ん。し。て。大。坂。者。へ。口。業。耀。で。より。め。の  
ご。ご。へ。大。より。喰。ぬ。る。ぞ。り。め。が。さ。は。が。系。の。お。方  
ご。け。で。揺。び。と。決。山。あ。が。つ。て。を。登。屋。へ。つ。つ。て。ご。ご。る

と。い。は。し。て。の。系。い。う。ん。ん。中。う。ま

牙 右 清 づ

中。む。し。う。芝。院。一。世。一。代。の。舞。臺。を。勤。め。て。か。か。屋。  
市。を。清。と。改。め。儀。儀。の。道。を。と。る。れ。ら。る。ま。今。  
年。より。又。送。野。田。一。中。へ。勤。る。こ。も。へ。り。ぬ。げ。  
評。判。あ。ま。ひ。く。を。通。ま。は。く。一。つ。の。旅。び。と。な。  
り。ら。る。古。月。廿。四。日。の。祀。そ。う。れ。か。か。屋。市。を。清。  
天。海。の。一。神。一。ま。う。で。ら。る。が。見。物。の。人。を。ま。る。の。

か。く。中。の。坂。道。を。と。り。老。松。町。の。う。ま。と。を。向。  
ま。る。お。も。宮。入。の。だ。ん。ご。り。拵。つ。ら。り。て。砂。畑。を。  
と。り。て。確。の。ま。り。じ。が。か。か。屋。屋。紙。見。て。そ。り。や。芝。院。  
が。ま。の。と。確。り。を。止。と。見。物。ま。る。ゆ。へ。結。ひ。く。  
者。も。ま。り。れ。が。だ。ん。ご。り。と。ま。り。ら。る。す。う。証。を。被。も。  
明。中。あ。り。て。芝。院。を。見。て。あ。る。と。だ。ん。ご。り。仲。り。の。  
親。父。合。大。孝。あ。げ。て。ヤ。イ。者。者。者。役。者。が。  
ま。さ。と。と。だ。ん。ご。り。引。中。あ。る。法。が。有。ら。い。田。舎。



